

機関番号：14501

研究種目：基盤研究 (B)

研究期間：2007 ~ 2010

課題番号：19401008

研究課題名 (和文) グローバル化における東アジア地域社会の構造変動

研究課題名 (英文) The Structural Change of Local Community under Globalization in East Asia.

研究代表者

佐々木 衛 (SASAKI MAMORU)

神戸大学・大学院人文学研究科・教授

研究者番号：60136398

研究成果の概要 (和文)：

青島を対象にインテンシブな調査と質問表調査を実施した。村が土地開発によって収益をあげて、元村民の住宅建設など様々な生活基盤の整備をしている事例があった。この地域では、「本村人間の均分主義、よそ者に対する格差」が地域社会を構成する論理となっている。都市住民は本村人でない限り、数年で移転しているなど、頻繁な移動を経験している。一般に、住民が地域の問題に積極的にかかわることはない。

研究成果の概要 (英文)：

We carried out both intensive and questionnaire research in Qingdao, China. With this materials of this research, we found out that some villages could yield huge profits out of a property development, and maintained various infrastructures such as housing, water supply, education and so on for co-villagers' member. In these villages, the logic of "equal division within co-villagers' member, and disparities between co-villagers and outsiders" permeates through regional social life. And ordinary residents, as long as they are not co-villagers but outsiders, are experiencing frequent movement in several years. Generally, they are reluctant to commit themselves to social activities in regional community.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	3,100,000	930,000	4,030,000
2008 年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2009 年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2010 年度	2,800,000	840,000	3,640,000
総計	11,700,000	3,510,000	15,210,000

研究分野：社会学

科研費の分科・細目：地域研究

キーワード：グローバル化、移動、地域社会、階層構造、構造変動、東アジア

1. 研究開始当初の背景

(1) 東アジアはグローバル化のもとでの構造格差、富裕層・中間層・不安定就業層の階層間格差を同時代的に経験している。

(2) 国境を越える人の移動は、国家と社会との関係を変容させている。

(3) グローバル化が引き起こしている社会的格差を克服する方途の検討は、成熟した市民社会を実現する必要条件である。

(4) グローバル都市論、新中間層論、市民社会論、消費社会論、エスニシティ論、ネットワーク論などの様々の研究は、この中心テーマ

を共有することによって現代社会学の一端を構成している。

2. 研究の目的

中国社会の構造変動のダイナミズムを開明するとともに、社会学的な変動モデルを提起し、東アジアの構造変動を比較的に研究するパラダイムを検証する。また、成熟した市民社会が実現する可能性を実証的に解明する。

(1) 中国では、Community の中国訳として「社区」が使われているが、社会学的概念地域 (Community) と必ずしも一致しない。地域の構造を社会学的に確認することを目的とする。

(2) 中国社会をフィールドにした社会学的な変動モデルを構成するために、中国で特に関心を持たれている諸問題、即ち、外来者と地元住民との社会的格差の実態、格差が形成される論理、都市地域社会の再編にかんする調査研究を目的とする。

(3) 分析モデルとしての「基礎構造パラダイム」の検証。

中国社会に内在する固有の構造的メカニズムと論理を明らかにするためのパラダイムである。現代中国の構造転換の具体相に表出している現実現代中国の社会構造の転換では、急激な経済成長を迎え、成長のチャンスに恵まれた地域と人々がある一方、成長の波に乗るだけの条件が欠けた地域と人々があり、格差を拡大している。しかし、社会構造の転換を社会全体として見れば、経済成長を達成し、階層格差を拡大するメカニズムには、構造転換の深層に布置する中国の構造的特性が大きな規定力となっていることを見逃すことが出来ない。個人のレベルでいうならば、農村から都市に移動するエネルギーを引き出し、新しい生活を経験し、そして、諸個人が経験した成功と失敗を受容させる論理が存在している。社会を構成する論理と人々が生きる観念の基層を明らかにすることで、中国社会の構造的特性がグローバル化のなかの構造転換を促進させ、あるいは抑制している側面をダイナミックに論じる事ができる。さらに、この事実の上に、東アジア地域における構造転換の多様性を見いだす視座を検討することができる。

3. 研究の方法

(1) 都市の空間的拡大、産業構造の変遷、人口動態と居住空間の再編など基礎的な資料の収集。

(2) 人々の移動エネルギーが引き出される形態と論理を開明するために、インテンシブな聞き取り調査を実施。

4 つの典型的な地域 (都心ビジネス街とし

て開発された地区、レジャー村に生まれ変わった漁村、中間層の住む住宅団地、gated community としての「小区」) を対象に、人口移動と地域社会の変容に関する資料を収集した。

①住宅開発が進んでいる地域では、インテンシブな聞き取り調査と、質問票を用いた調査によって、住民の移動状況、生活意識に関する資料を収集した。

②市街地にとりこまれた地域と漁村が急激に住宅化した地域では、地域社会の運営に関する資料を収集した。

(3) コミュニティ意識を検証するために、住宅地として開発された地区の住民300名を対象にした質問表調査を実施した。コミュニティへの規範意識、住民の地域的な移動、学歴、職業の経路、家族構成とネットワークを調査項目とした。

4. 研究成果

(1) 地域を構成する論理

①4 つの事例から、社区を管理する不動産管理会社が果たす役割が大きいことがわかった。また、党組織は表面には現れないが、居民委員会の組織においても、不動産管理会社の経営においても、中核となっている。

②不動産管理会社には、道路の清掃、ゴミ処理、個人家屋の修繕、部屋の下水道が詰まったとか、水が漏れたとか、壁にひびが入ったとか、とにかく様々な事項が持ち込まれている。しかし、不動産管理会社による管理事業によって、園内が清潔で、安全秩序が保たれて、人の移動を管理している。

③この厳格な管理のおかげで、住民は、自分たちだけの安寧な生活を楽しむことが出来住宅の資産価値を増大して、住民の満足度を高めている。

(2) 地域のタイプ

①居民委員会と不動産管理会社が一体となっている事例；生産大隊の財産を継承した地域では、行政機能の一端を遂行するよう求める居民委員会とは別に、資産を管理し、経営利益を発展させる資産管理会社を設立している傾向が強い。元村民は、企業の社員として受け入れられ、村が共有する利益を享受する利益を今日中することが出来る。村の財産のおかげで、良好な生活条件を享受できる村民は、外来者との成員資格の区分を明確にし、利益の享受から排除している。

②居民委員会の管轄範囲は元住民の組織する会社の範囲をこえて、行政的な機能の一端を狭量区に推し進めなければならない事例；元の村が新しい社区の中核となつてはいるが、オフィスビルや大型複合レジャー施設が建設されて、一からすると外来者や賃貸者がすでに本村人を圧倒しており、居民委員会と

会社との関係はもう少し複雑な組み合わせにならざるを得ない。もと村民は、都市の中心で、近代的なオフィスビルが建ち並び、歓楽・ショッピング・飲食店が集中し、外来者の流入が激しいにも関わらず、なお中心的な空間に自分たちの生活空間を保持し、都市のただ中でも、大隊が操業していた企業体を継続して共有し、資産を拡大することで、生産大隊の構造を引き継いだ体制を新たに生み出している。従って、当地では、もと村民と移り住んできた住民とは交わらないモザイク構造が出現している。党組織は、地域全体の管理という視点から、両者を仲介する役割を果たしているように推測される。

③立ち退き住民のために家屋を補償したにもかかわらず、元住民の組織が解消され、不動産管理会社が居民委員会とは一線をかして画して、独自に不動産収益を求めている事例；小区の道路、下水道、建物の管理の経費は、不動産会社の事業の経営利益から売り下の中から補填している。建設当時、この不動産会社に提供された管理費の積み立てこそが、資金として、新たな不動産市場での活動を支え、運用益を生み出している。

④ゲートつき「小区」の事例；人の出入りを厳格に管理することで、閉ざされた「小区」の資産価値を高めようとしている。一種の gated community としての性格を持つ。周囲を壁で取り囲み、邪気の進入を影壁で防いだ「四合院」を連想させる。現在、高級マンションとして建設されているのは、例外なくこの様な形式によっている。移動者が閉じられた空間を共有することによって、形態的にも、そして家屋の価格、社会階層、生活形態などの社会性をも共通項として産出するメカニズムとなっている。

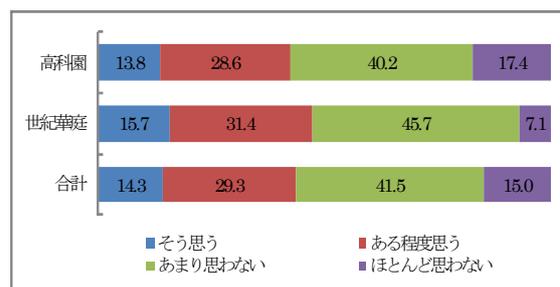
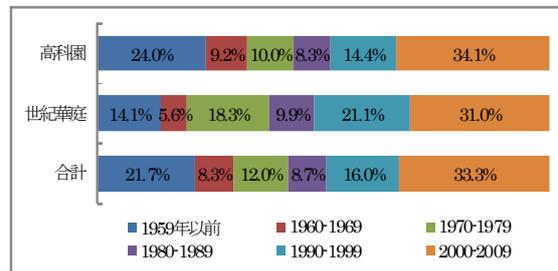
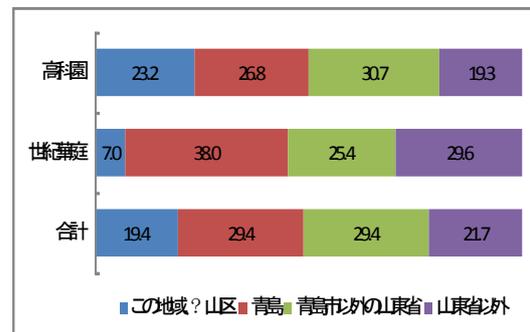
(3) 「社区」の構造的性格

「社区」が住民自身の自主的・主体的な参加によって組織され、住民意識の地域への統合性、活動の自主性、地域への愛着という規範性によってエネルギーが引き出されているとは想定しがたい。地元住人にすれば、「肥水不落外人田（利益を外に漏らさない）」という格言があり、利益を共有するものとそうでない者との分限を明確にして、「本村人間の均分主義、よそ者に対する格差」に、地域社会を構成する論理となっていることを伺うことが出来る。かつての大隊の構成員は、不動産的価値が高まれば、社員としていっそう確実に便益を享受することを期待できる。

しかし、彼らにあっても、一般に表現すると、面倒なことは居民委員会と不動産会社にお任せという態度が大きい。まして、他所から移り住んだ人たち、賃貸住宅に住んでいる人たちにとって、条件が悪ければ、もっと良いところを探して転出すればよいことである。

(4) コミュニティ意識

対象地域の住民の多くは、青島出身、もしくは青島周辺の出身者であった。居住歴は、1990年以降に統治に移住してきた人であるか、2000年になって入居した人も少なくない。コミュニティ意識を測定する一つとして、「この社区のために何か役に立ちたいことをしたいか」という質問をした。相対的に肯定的な意見が多く表明されたが、移動に関しては「出来れば移りたい」という人が相対的に多いという事実と相反する傾向が示された。調査に対する「タテマエ」的な回答なのか、それとも何らかのロジックでそのように意欲させているのか、さらに検討が必要であった。



(5) 現代中国におけるコミュニティの構造と論理

人民公社体制の土地管理の影響をなお引き継いでいることがわかった。土地や企業など村が管理する財産が利益を生んだ場合、利益を享受するのは、元村民に限定される。企業の立地に恵まれた地域は、資本と企業を呼

び込み、さらには土地の不動産的運用も可能で、村に蓄積される金額は膨大なものになる。村人に雇用機会を生み出すだけでなく、企業を創業するチャンスを拡大し、さらに蓄積した資金で住宅の提供など村人に手厚い福祉を提供している。「肥水不落外人田（利益を外に漏らさない）」という格言があるように、利益を共有するものとそうでない者との分限を明確にして、「差序格局」として知られる論理が貫かれている。この構造論理を「本地人間の均分主義、外地人に対する格差主義」とモデル化した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

- ①佐々木衛 「現代中国の地域社会・コミュニティをどの様に捉えるか」『現代社会の構想と分析』第8号、2010年pp.44-62
- ② SASAKI, Mamoru 'Transformation of Social Structure in China Today: From the Aspect of 'Base-Course Structural Paradigm', *Cultural Interaction Studies of Sea Port Cities*, No.2, pp.135-166. April, 2010. (KOREA, MARITIME UNIVERSITY, Institute of International Maritime Affairs.)
- ③大城直樹 「ポストモダン年の遊歩をめぐる諸相」『都市地理学』第4号、2009年、pp.71-78
- ④佐々木衛 「東亜のグローバル化：族群與国族主義的交錯」徐興慶編『東亜文化交流：空間・疆界・遷移』国立台湾大学出版中心、2008年、pp.1-21
- ⑤稲月正 「民族関係研究における生活構造的アプローチの再検討」『日本都市社会学会年報』26号、2008年、pp.73-85

[学会発表] (計15件)

- ①佐々木衛 『『基層構造パラダイム』から構想する日本・東アジア研究』国立台湾大学主催『臺日相互理解的思索与实践』2010年12月1・2日
- ②佐々木衛 「現代中国の都市的展開—青島市新開発区の構造的特徴」第82回日本社会学会 2009年10月11日
- ③佐々木衛 「グローバル化における中国社会構造の変容」アジア社会研究会 2009年11月1日、pp.316
- ④首藤明和 「分岐する現代中国家族—個人と家族の再編成」日中社会学会、2008年3月

27日

⑤首藤明和 「中国の底辺階級に関する実証的研究」日中社会学会、2007年6月3日

[図書] (計13件)

- ①佐々木衛編 『2010年度研究報告書 グローバル化における東アジア地域社会の構造転換』神戸大学人文学研究科研究報告書、2011年、pp.1-316
- ②過放共編著 『チャイニーズネスとトランスナショナルアイデンティティ (グローバルゼーションと東アジア社会の新構想2)』明石書店、2010年、pp.1-307
- 大城直樹編著 『モダン都市の系譜』ナカニシヤ、2008年、pp.1-335

ホームページ等
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐々木 衛 (SASAKI MAMORU)
神戸大学・大学院人文学研究科・教授
研究者番号：60136398

(2) 研究分担者

稲月 正 (INAZUKI TADASHI)
北九州市立大学・基盤教育センター・教授
研究者番号：00232512

首藤 明和 (SHUTO TOSHIKAZU)

兵庫教育大学・学校教育研究科・准教授
研究者番号：60346294

過 放 (GUO FANG)

桃山学院大学・社会学部・准教授
研究者番号：00283911

朴 鍾祐 (PAKU SHOYU)

神戸大学・留学生センター・教授
研究者番号：60304078

大城 直樹 (OSHIRO NAOKI)

神戸大学・大学院人文学研究科・准教授
研究者番号：00274407

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：